

Title	データから知識へ : シビックテックのオープンデータ活用から学ぶ
Author(s)	呉, 星辰; 敷田, 麻実
Citation	第25回「野生生物と社会」学会大会プログラム・講演要旨集: 27-27
Issue Date	2019-11
Type	Presentation
Text version	publisher
URL	http://hdl.handle.net/10119/16914
Rights	Copyright (C) 2019 「野生生物と社会」学会. 呉星辰, 敷田麻実, 第25回「野生生物と社会」学会大会プログラム・講演要旨集, 2019, p.27.
Description	

データから知識へ：シビックテックのオープンデータ活用から学ぶ

From data to knowledge: Learning from civic tech's open data utilization

呉星辰・敷田麻実

GO Seishin and SHIKIDA Asami

近年、ICT 技術の発展およびオープンデータ化の進展によって、市民と IT 技術者などの専門家が協働でオープンデータを利活用する社会的な動き「シビックテック」が始まっている。2009 年には、アメリカで NPO 組織「Code for America」が設立された。この組織は、ICT 技術と市民が持つ知識やスキルを用いて、行政が保有しているオープンデータや自ら集めたデータを用いて、新たな行政サービスを生み出している。日本でも、社会課題の解決のためのソフトウェアを開発するコミュニティ「Code for Kanazawa」が、石川県金沢市で 2013 年に初めて設立され、現在約 80 の CFX が設立(もしくは設立準備)されている。

シビックテック活動は、オープンデータを利用して新たなサービスを創出する。この点で、データから科学的な意味(新たな科学的知識)を見いだす科学とは違いもあるが、現代の市民科学と共通点が多く、オープンデータの活用やそのための組織、仕組みの構築を考える参考になる。この発表では、シビックテックと市民科学の対比から、データの活用や価値創出、知識創造について議論する。